

ありむら ひろゆき
有村 博幸

“ 偽 ”

情報労連・副委員長
N T T 労組・事務局長

“ 制度疲労 ” というのか社会全体に疲労を感じるものがある。

時が経過すると物事の基本は分っているつもりなのについつい慣れっこになってしまって、いつの間にかことの大事さを忘れ、麻痺してしまっていることが多々生じているのではないか。

昨年は、永年かけて築き上げた “ 老舗 ” や “ 業界大手 ” と言われている 『 食 』 に携わる企業の信じがたいようなできごとが次々と明らかになった。

大抵の人間、食べることには多くの興味や関心をもっている。

テレビでは何処かのチャンネルで 「 グルメ旅 」 「 今が旬の 」 などなど、産地の有名な食材や高級料理、味自慢の料理などの番組が放送されている。ついつい番組名につられて観てしまう。(私だけか ?) 放送番組の多さからも、 『 食 』 への関心の高さが伺える。

そのような大事な 『 食 』 に対して “ ショック ” が走った。

“ 食品を偽装表示 ” “ 消費期限切れ回収食品に期限の張替え ” “ 調理日改ざん ” “ 賞味期限改ざん ” “ 生産地偽装 ” などなど。ここまでくれば、何処も同じか？ 大丈夫なところは何処？ と疑いたくなってしまう。

当たり前前にきちんと経営することが難しい時代になったのか。

消費期限とは、食品などに表記が義務付けられ、消費期限とは、 『 製造者 』 が定めたある

保存方法で概ね 5 日間経つと品質劣化する長期保存できない食品の食用可能期限」となっている。そして、刺身や弁当などは、年月日に加えて時刻まで表記されている。賞味期限とは、「その食品に責任を負う 『 製造業者 』 等が、科学的・合理的根拠を持って適正に設定」することになっているとのこと。

期限を付けるのは何れも 『 製造者 』 である。規制緩和の流れの所為なのか、何処の業界も競争が激しくなり、ぎりぎりまでコスト削減が求められ、そのしわ寄せがいろいろなところに来ているように思える。今回、 『 食 』 の一連の報道でも原材料費から人件費までコストが徹底されているのが分かる。“ 老舗 ” の看板があっても “ 業界大手 ” でも当然なのだろうが、行き過ぎにはブーイングを出したい。それともそれがあって、築きあげてこられたのか。

そこには、いつも労働者が頑張っている。それも、パートや契約労働者がほとんどである。低賃金で労働時間も過酷。 『 デイゼ口問題 』 という言葉があるそうだ。午前 0 時に生産し、当日製造出荷とするのである。当然そこで働く人への負担は大変なものがある。その上、懸命に頑張っても、雇用期間の保障も無い。費用 (雇用) の需給弁にされていつ解雇になるか分からない。雇用の多様化の進展には、何か理解しがたい状況が至るところに見えてくる。

ある有名な高級料亭。店頭販売の商品の消



費期限を延ばして販売、一方で、牛肉等の産地も偽装した上に賞味期限も延ばしていた。何とその経営者は、その責任を全て担当者以下に負わせようとしていた。『食』である。『食』を扱う会社で、一瞬にしてその会社の信頼を失うようなことを責任者でなくして誰もが勝手に出来るものではないと考えるのが普通である。九州出身の私にとってもう一つ気に食わないのは、九州の牛肉を産地偽装して販売するとは「何事」、九州の産地名で勝負しろと言いたい。

しかし、この経営者は一体何なのか。信頼して利用するお客さん、頑張っている従業員、全ての皆さんを裏切り、最後は責任転嫁で乗り切ろうなど、どこまでも「ずるい」。

“企業は人なり”。たとえ短期であれ、長期雇用であれ、正社員であれ、パートタイマーであれ、企業を支える大切な“財”であるはず。見方を変えれば、お客様であり、広告塔にもなる。その従業員をないがしろにしたしっぺ返しは大きい。情報化社会、一度失った信頼を取り戻すには大変な時間と努力を要する。

賞味期限の改ざんなどの不正で販売を中止していた北の国の“ある恋人”では、取引をやめた販売店は全く無く、約三ヶ月ぶりの販売再開と同時に「予想以上の売れ行き、フル生産しても需要に追いつかない」らしい。これは一つの現象であって、消費者をだましたことが決して許されたものではない。そうでなければ世も末である。

24時間営業のコンビニは、消費期限との戦いである。一日に3度程度、お弁当やおにぎりを入れ替え、期限の一時間前には処分され、新たな商品が店頭に並ぶ。このことが、大量の食品廃棄を招き、社会問題にもなった。

あるコンビニでは、消費期限前の一時間を有効に活用し、食材を精査し、それを低料金で利用できる食堂に提供していることが報道されていた。安全が確認出来れば消費者も十分である。食糧需給率などが話題になっていることもある。消費・賞味期限に対する何気ない感覚的なものをもう一度考え直すことも必要な気がする。

建物の信頼を揺るがした耐震偽装。報道されたときには、大騒ぎになった。時間の経過とともに忘れられそうになったが、橋や高速道路は……。また、公表された。

世の中の安心や信頼とは何か。作られたルールや制度は、時間とともに“疲労”してくるものである。当たり前のようにになっていることをもう一度考え直すことも必要ではないか。どこかでしっぺ返しがかかることを肝に銘じておきたい。

事あれば常に弱い立場の人にしわ寄せがいく。

行き着くところ労働組合の社会的責任として格差社会に対する取り組みの必要性をあらためて感じる。